

令和5年度 奈良市発達支援ネットワーク会議の概要

開催日時	令和5年8月24日（木）午後2時から午後4時00分まで
開催場所	奈良市子どもセンター 大会議室
議 題	1 令和4年度 奈良市の発達支援の現状報告 2 発達支援親子教室についての報告 3 討議
出席者	出席委員5人（リモート参加1人）・関係課4人・事務局10人
開催形態	公開（傍聴人 2人）
担当課	子ども未来部 子育て相談課

議事の内容

1. 令和4年度奈良市の発達支援の現状報告（令和4年度実績報告）

（1）母子保健課の相談実績

1歳7か月児・3歳6か月児健康診査受診状況と発達相談実績

発達支援親子教室の実績

子育て相談課 発達支援係への紹介について

（2）子育て相談課 発達支援係の相談実績

電話・来所相談実績

園巡回・園訪問相談事業実績（教育との就学に向けた同行園巡回相談含む）

園訪問相談から見えてきた課題について

（3）保育総務課の相談実績

特別支援教育コーディネーターリーダーの活動実績

特別支援に関する研修実績

（4）教育支援・相談課の相談実績

年長児対象の就学に係る相談実績

（5）障がい福祉課の障害児通所支援事業の報告

児童発達支援事業所数、相談支援事業所利用者率について

2. 討議内容

討議に先立ち、発達支援親子教室の取り組みやその目的、事例を通じた関わりの例を報告した。そのうえで、発達支援の土台となる親子教室を展開する上で着眼すべきことについて討議を行い、委員から以下のような意見を得た。

（1）発達支援親子教室の取り組みについて

- ・発達支援親子教室は、まだ専門的な支援に触れていない家庭の支援の入り口であり、重要な役割を担っている。保護者が、客観的に我が子の発達を捉えることができる場であり、その後の支援に繋がるきっかけとなるのではないかと考える。
- ・保護者が、遊びの目的を知りつつ子どもと一緒に体験することが、その後の、発達の理解につながり、また、子育ての見通しが持てるようになると考えられる。

- ・同年代の子を持つ保護者同士が集うコミュニティとなることも、子育ての見通しをもつことに繋がるのではないかと考える。保護者が安心して話せる場が大切である。

（２）発達支援親子教室の今後に向けた課題

- ・支援者が過度にサポートをすることで、保護者の子どもを育てる力を削いではいけないという視点が必要と考えられる。支援者は、伴走者として保護者の持つ子どもを育てる力が最大限に発揮できるよう、それぞれの保護者のニーズに合わせて寄り添うことが必要だと感じる。支援者と保護者がチームになり、役割分担をしながら子どもに関わっていくことが重要と考える。
- ・保護者の中でも父親は、子育てに関するコミュニティを持っていない場合がある。母親だけでなく、父親がそうしたコミュニティに参加できるような仕組みがあると良いのではないかとと思われる。
- ・発達支援親子教室利用に対して、抵抗を感じる家庭がある。利用をためらう気持ちのハードルを下げるための情報発信が必要である。
- ・保護者支援に関して、保護者が少し先の見通しを持てるようになることは重要だと感じる。支援者が専門的な視点を持ち、遊びの意義や子どもの行動の理由について助言を行うことは、保護者が子どもの発達に対し理解を深める一助となると思われる。